

クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP)

第 5 回鉄鋼タスクフォース会合、釜山、韓国

2008 年 4 月 14-15 日

議長総括

0. はじめに

クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP) の鉄鋼タスクフォースのたていし・じょうじ議長が、2008 年 4 月 14-15 日、韓国の釜山のパラダイス・ホテルで、APP 第 5 回鉄鋼タスクフォース会合を開催した。会合は、参加 7 ヶ国すべてから代表が集まり、約 50 人の参加者が出席した。韓国鉄鋼業界から数名のオブザーバーも出席した。

タスクフォース会合と合わせて、ホスト国の韓国が主催した第 4 回ワークショップが 4 月 16 日に同じ場所で開催され、タスクフォースのメンバーを含む 100 人余りが参加した。上記イベントに続き、4 月 17 日にポスコの浦項製鉄所の視察が行われた。

1. 議題採択

韓国政府を代表して、知識経済省金属・化学品局のミン・キム局長の歓迎のスピーチと、議長の開会の言葉の後、タスクフォースは今回会合の議題を、予め配布した原案どおりに採択した。続いて、タスクフォースの参加者が順次、自己紹介した。

2. 現状報告

全参加国が、前年 10 月にオーストラリアのウーロンゴンで開かれた前回タスクフォース会合以降のそれぞれの活動と取り組みを簡潔に報告した。

オーストラリアは、2007 年 11 月に選出された新政権が、京都議定書を批准し、予算措置を講じることで、環境面の課題に立ち向かうべく強く取り組む姿勢を示したと報告した。

カナダは、鉄鋼業を含めた温室効果ガス排出の新たな国内規制案を紹介した。2006 年水準に比べて、2010 年までに排出量を 18%削減し、その後さらに毎年 2%ずつ削減する。

インドは、同国政府のクリーン気候への取り組みと、インド鉄鋼業界が取ったイニシアチブを報告した。

タスクフォース議長国の日本は、自ら幹事国を務めるプロジェクト 2 と 4 の現状とともに、APP 鉄鋼タスクフォースの過去の進展ぶりを振り返った。日本はさらに、「日本鉄鋼連盟の自主行動計画」と、エネルギーの使用の合理化に関する法律の改正案を説明した。

韓国は、政策策定における省庁間の協力と、政府と産業界の間いくつか自主協定が存在することを説明した。

米国の報告には、中国の APP 活動に関する援助要請 (RFA) を求めた国務省の努力と関

連するスケジュールの概要や、まだ成立していない米気候法案の最近の状況が盛り込まれていた。現政権は、国際鉄鋼協会（IISI）の「グローバルなセクター・アプローチ」などのセクター別国際協定を支持している。

今回のタスクフォース会合を都合により欠席した国家発展改革委員会の Tang Bin 氏に代わり、中国鋼鉄工業協会（CISA）の Huang Dao 氏が、中国鉄鋼業に関して施行された政策措置の注目すべき情報とともに、今日の中国鉄鋼業の状況について素晴らしい発表を行った。

3. 省エネのための鉄鋼産業関連指標の現状評価 [STF-06-02]

日本が幹事国として、プロジェクト 2 のこれまでの進捗状況を報告した。プロジェクト 2 では、5 月の次回政策実施委員会に間に合うように、最初のデータ収集分析過程が間もなく終了する。日本は、専門家グループ（EG）で取り上げる必要のあるデータ問題がいくつかあると指摘した。

これに続いて、EG リーダーを務めるポスコの Y・D・Jang 氏が、タスクフォース会合に先立って開かれた EG 会合について報告した。EG は、構成の異なるデータの一部を見直し、関連する諸国からフィードバックを受けることで合意した。EG は、データの収集について参加国の支援を求めた。

インドは、サイトの CO2 排出量とエネルギーに関連するデータ収集体制について、同じ企業／国が報告した排出結果が異なるのを避け、処理する文書や記録保管を減らすのに役立つように、IISI が採っている書式やガイドラインに合わせるか、あるいは逆の形で、統一すべきだと強調した。データの質と形式に関して多少議論した後、タスクフォースは、データの収集対象と質を改善し、測定可能・報告可能・検証可能な中期目標設定方法論の確立を目指して（例えば、目標の基準、目標年度、各参加国の事情を考慮して反映させる方法など）、努力を続けると同時に、IISI の方法論との共通性を観察することで合意した。

タスクフォースはまた、スプレッドシート報告書式に基づくデータ収集・ベンチマーキング方法について、カナダから話を聞いた。これには、プロジェクト 2 の作業支援に役立つかもしれない特徴がある。タスクフォース参加者の間で、優れた方法だと広く称賛された。

4. パフォーマンス指標の設定 [STF-06-03]

タスクフォースはまず、プロジェクト 2 と 3 で見込まれる調査結果や分析の信用と信頼性を分かりやすく高めるため、独立の第三者を導入する米国の提案に耳を傾けた。米国チームが提案した基本概念をもとに、参加国は第三者導入の必要性、第三者が果たすと期待される具体的役割、第三者導入アプローチの財源手当てなどの事項を議論した。また、データハブ、専門家グループ、第三者の役割分担を一層明確にする必要があることも議論され、集めたデータの秘密を第三者に確実に守らせるべきだと確認された。

この議論の結論には、このトピックの 2 回目のセッションで米国チームが出した修正提案が盛り込まれ、タスクフォースは米国チームが以下を行うことに概ね同意した。

- ・ 2007 会計年度用に提案された RFA に基づき、米務省から主に資金を確保し、正式提案の提出を進める。
- ・ 既存の EG の活動や責任に関する合意と併せて、監査人としての第三者の作業と役割の範囲を見直し、公表する。
- ・ 他の関連する鉄鋼タスクフォース参加者と協議して、求められる類のサービスの提供候補者から、提供者の選定手続きを行う。

続いて、韓国が幹事国として、実施した調査の中間結果を、今後の作業の流れに関する提案とともに報告した。その中で、プロジェクト 3 の目的があらためて述べられ、計画されている作業の予定が発表された。

また、外部機関のゲストスピーカーが以下の発表を行った。

- ・ 国際エネルギー機関 (IEA) の D・Gielen 博士： 鉄鋼業の排出パフォーマンス指標に関して、セクター別の国際的取り組みについて。
- ・ 地球環境産業技術研究機構 (RITE) の秋元圭吾博士： 数学モデルをベースにした鉄鋼業の排出削減ポテンシャルの予測方法と長期予測結果の一部の分析について。

上記の発表はいずれも、鉄鋼業の大幅な削減ポテンシャルを明らかにし、望ましい結果を達成する上で、APP のようなセクター別・活動中心のアプローチの重要性を強調し、タスクフォース参加者に中期目標の設定を促した。両発表は正確なデータに欠けることも指摘し、信頼できる優れたデータが必要だと述べた。

5. パフォーマンス診断 [STF-06-04]

このプロジェクトの最初の活動として、日本が昨年 12 月から今年 1 月にかけて、中国の 3 ヶ所、インドの 1 ヶ所の鉄鋼プラントに省エネ・環境保護技術の専門家を派遣した。日本チームは診断訪問の結果とともに、取り得る改善についての勧告、今後の作業計画を発表した。今後の作業計画には、2008 年度中にインドでさらに 2 ヶ所のプラントを診断することが含まれる。インドと中国は、次の段階で訪問するサイトの優先順位を付けるように要請された。インドは、さらに有益な目的に役立つように、特に改装可能性 (retrofitability) について、既存プラントの省エネ対策の普及度を診断の際に調べるように提案した。

将来の診断訪問先の候補がいくつか残っているため、議長はタスクフォースに対し、候補地を議論して合意するように要請した。議長はまた、他の参加国が日本と同様にパフォーマンス診断を行って支援するように呼び掛けた。

6. 最先端クリーン技術 (SOACT) ハンドブック [STF-06-05]

米国がこのプロジェクトの幹事国として、追加する内容、更新スケジュール、ハンドブックをさらに改善するための作業手順について、議論を主導した。その結果、タスクフォースは以下を行うことで合意した。

- ・カナダの技術を加えるのを 2008 年中に完了する。
- ・ショーケースの後に、技術ハンドブックを更新する（新たに展示された技術を取り入れるため）。
- ・2009 年秋の APP タスクフォース会合前に、第 2 版を発行する。

7. 技術普及 [STF-06-06]

オーストラリアが幹事国として主導し、このプロジェクトの議論は、STF-06-06 の目的と、オーストラリアに果たすように望む具体的役割、パフォーマンス診断実施後の個別プロジェクトに集中した。これは、現在のアクションプラン文書に示された公式のプロジェクトの説明に立ち返ることで明確になり、オーストラリアの役割はプロジェクト実施活動を促進することとなった。オーストラリアは、優先順位の決定とプロジェクトの取り組みに向けたガイドライン策定を引き受けた。インドは、方法論が発展するような個別プロジェクトを実施するため選ぶように、プロジェクト 4 の結果はプロジェクト 6 に基づいてフォローアップを受けなければならないと意見を述べた。

8. 他の事項

前回タスクフォース会合の議論が「技術ショーケース」を企画し、技術サプライヤを招く提案につながったのを受けて、米国チームが技術ショーケースの企画にまつわる長所と短所を論じた。結論として、鉄鋼技術協会 (AISTech) が 2009 年 5 月 4-7 日に米ミズーリ州セントルイスで開催する予定の展覧会と共催して、技術ショーケースを実行し、ひょっとすると第 7 回 APP 鉄鋼タスクフォース会合も合わせて開けるかもしれないと提言した。米国の提案には、タスクフォース参加者の大多数から同意や支持が集まったが、中国とインドは引き続き、イベント開催候補地のリストにとどまった。米国は 5 月までに、AISTech の設営に関して、より詳しい情報をタスクフォース参加者に提供するように求められた。中国は、中国にショーケースを設置すれば、中国とインドの鉄鋼メーカーの参加が容易になると提案した。この点は総じて賛成された。中国とインドはまた、このイベントに関する候補日と開催候補地をできる限り早急に取りまとめるように求められた。

9. 今後の作業についての協議

現在の鉄鋼タスクフォースは、具体的なアクションプランに関して、2007 年までしかカバーしていない。このため議長は、各タスクフォース参加者に検討してもらうように、2008

年以降のリストに加えるべき活動を提案した。また、議長が 5 月に米シアトルで開かれる第 6 回 PIC 会合で PIC 委員に報告できるように、2008 年 4 月末までに意見を寄せるように要請された。

前回会合で得られたコンセンサスにより、次回タスクフォース会合は中国国内で、2008 年 10 月または 11 月に開かれる。

米国が、2009 年 5 月初頭に第 7 回タスクフォース会合を米国で開くことを提案し、カナダ代表は第 8 回タスクフォース会合を自国で開くことに意欲を示した。

10. 閉会

議長は会合と 2 日間の議論の間に下された決定を総括し、閉会の言葉を述べた。議長は直ちに会合のメモと要約を起案し、タスクフォースの参加者に配布した。議長が代表全員と韓国の親切なもてなしに謝意を述べ、閉会を宣した。